

PROGRAM

■モーツァルト：歌劇「ドン・ジョヴァンニ」より おっしゃらないで、私の素晴らしい憧れのお方
W.A.Mozart / Opera “Don Giovanni” ~ Non mi dir, bell’idol mio

ソプラノ：中野陽登美

■モーツァルト：歌劇「コシ・ファントウツテ」より 恋人よ許して下さい
W.A.Mozart / Opera “Cosi fan tutte” ~ Per pietà, ben mio

ソプラノ：櫻井 孝子

■ショパン：ピアノ協奏曲 第1番 ホ短調 作品11
F.Chopin / Piano Concerto No.1 in E minor op.11

- I . Allegro maestoso
- II . Romanze, Larghetto
- III. Rondo, Vivace

ピアノ：小谷 朋子

* * *

■リスト：ピアノ協奏曲 第1番 変ホ長調 S.124
F.Liszt / Piano Concerto No.1 in E-flat major S.124

- I . Allegro maestoso - Tempo giusto
- II . Quasi adagio
- III. Allegretto vivace
- IV. Allegro marziale animato

ピアノ：池田 董

■プーランク：2台のピアノのための協奏曲 ニ短調 FP 61
F.Poulenc / Concerto for 2 Pianos in D minor FP61

- I . Allegro ma non troppo
- II . Larghetto
- III. Finale

2台ピアノ：木村貴子・関口康祐

■モーツァルト：2台のピアノのための協奏曲 変ホ長調 K.365
W.A.Mozart / Concerto for 2 Pianos in E-flat major K.365

- I . Allegro
- II . Andante
- III. Rondo: Allegro

2台ピアノ：池田洋子・奥村真理

門 良一：指揮／モーツァルト室内管弦楽団

【コンサートマスター】
釋 伸司

【第1ヴァイオリン】
釋 伸司

本多 智子

森住 憲一

中野 瑞己

赤穂 芙美

菊池 優理

【第2ヴァイオリン】
中川 敦史

都築紗智子

田原口安代

幣 晴代

清水 めぐみ

【ヴィオラ】
道幸 明美

三上 哲

白木原有子

【チェロ】
日野 俊介

石 豊久

南口 真耶

【コントラバス】
田中 寿代

土屋 綾子

【フルート】
大江 浩志

廣永 美優

本庄 ちひろ

【オーボエ】
上品 絢香

福盛 貴恵

【クラリネット】
高橋 博

門 小夜子

【ファゴット】
佐伯 利之

倉永 晴美

【ホルン】
佐藤 明美

垣本奈緒子

【トランペット】
森下 智稔

中島 真

【トロンボーン】
大浦 笙子

仁科 美咲

山根英有子

【チューバ】
三角 顕史

【打楽器】
泉 純一郎

中村 優太

石崎 礼子

PROFILE

●門 良一：指揮／モーツァルト室内管弦楽団 Ryoichi Kado, Director / Mozart-Kammerorchester Japan

1970年に指揮者 門 良一によって設立され、45年間一貫して30数名のメンバー構成を維持するわが国では数少ない本格的プロ室内オーケストラである。レパートリーはモーツァルト、ハイデンを中心とした古典派からバロック、前期ロマン派に及び、最近ではフランス近代の作品にも手を伸ばしている。モーツァルトに関しては交響曲と協奏曲の全曲を演奏した日本唯一のオーケストラであり、創立当初から新モーツァルト全集に準拠した楽譜を使用していることは注目に値する。91年のモーツァルト没後200年に際しては2年にわたり記念シリーズを催し、なかでもモーツァルトの予約演奏会プログラムを完全に再現した日本初の企画は大いに話題を呼んだ。演奏スタイルは中規模編成の特色をフルに生かしたもので、的確なテンポ、明快なリズム、清澄なサウンドは定評のあるところである。関西一円で演奏活動を展開するなかで、90年からは大阪いずみホールを本拠として年6回の定期演奏会を開催。また隔年毎に東京定期演奏会を行い既に17回を数えている。海外では88年にはドイツ民主共和国文化省の招聘による旧東独国内への演奏旅行を成功させている。内外の著名アーティストと数多く協演しており、なかでもマリア・ジョアオ・ピリス(85、87年)、シブリアン・カツァリス(93、94年)、ペーター・ダム(83、86、88、98、00年)、ウィーンフィル木管アンサンブル(86年)、ライナー・キュッヒル(90年)らとの名協演はいまも語り草となっている。91年に姉妹団体、モーツァルト記念合唱団を誕生させ宗教曲等で活発に協演する他、93年には堺シティオペラの協力による〈モーツァルト・オペラシリーズ〉を開始し、いずれも好評をもって迎えられている。06年1月にはモーツァルト生誕250年記念特別企画としてオペラ《イドメネオ》の世界初オリジナル・ノーカット版演奏会形式上演を挙行し絶賛を浴びた。「素晴らしい成果」(毎日新聞)、「この楽団は注目」(朝日新聞)。07～09年全10回にわたる〈没後200年記念・ハイデン・シリーズ〉を、09～11年全18回にわたる〈創立40周年シリーズ〉を、また10年からは〈ベートーヴェン・シリーズ〉を開催している。

中野 陽登美●ソプラノ Hitomi Nakano, Soprano

大阪音楽大学卒業。第12回みえ音楽コンクール声楽部門大学生・大学院生の部第1位。第10回大阪国際コンクール、第12回日本演奏家コンクール入選。多数のコンサートに出演する他、主催・企画公演も手掛ける。オペラでは「愛の妙薬」、「修道女アンジェリカ」、「ヘンゼルとグレーテル」、「ドン・ジョヴァンニ」等に出演。関西歌劇団主催のマスタークラス修了、ディプロマ取得。関西歌劇団正団員。神戸音楽家協会、神戸波の会各会員。濱崎加代子、小池輝美、荒田祐子、ブルーノ・ペラガッティ、ダミアノ・マリア・カリッソーニの各氏に師事。現在、神戸市民文化振興財団「オペラ講座」講師。

櫻井 孝子●ソプラノ Takako Sakurai, Soprano

大阪芸術大学演奏学科卒業。在学中より数多くのオペラやコンサートに出演。ローマ・Tivoli Accademia internazionale dell’opera マスタークラス修了、ディプロマ受賞及び修了演奏会に出演。B.ダル・モンテ、大塩チアキ、L.バラジョーラ、D.チャイン、V.スカレーラ、E.フルロッチェ、C.マリアーノ、イタリア・ミラノにてG.ロールミ、R.カッツァネーガ各氏に師事。第26回イタリア声楽コンクール金賞受賞。第18回飯塚新人音楽コンクール第2位。現在、寝屋川市を拠点に童謡唱歌を中心とした弾き歌いコンサート「つぼみコンサート」を企画・演奏。

小谷 朋子●ピアノ Tomoko Kotani, Piano

大阪音楽大学卒業、大阪教育大学大学院修了、パリ・エコール・ノルマル音楽院修了。第23回アゼリア推薦新人演奏会優秀賞をはじめ、第9回和歌山音楽コンクール第1位、第3回長江杯国際音楽コンクール第1位、第36回フランス音楽コンクール同国総領事賞など受賞多数。ソロ活動の他、延原武春指揮テレマン室内管弦楽団と共演。木下千代、阿部裕之、池田洋子、ジェルメーヌ・ムニエ、セルゲイ・マルカロフの各氏に師事。現在、常磐会短期大学、大阪女子短期大学各非常勤講師。日本ピアノ教育連盟、日本ショパン協会関西支部各会員。

池田 董●ピアノ Sumire Ikeda, Piano

大阪府立夕陽丘高等学校音楽科卒業。13年学費全額免除を受け、ドイツでのヨーロッパ国際マスタークラス、15年ザルツブルグ・モーツァルテウム音楽大学夏期国際音楽アカデミーに参加。第8回全日本芸術コンクール西日本大会第3

位、全国大会第4位。第13回宝塚バガ学生ピアノコンクール大学生部門第3位をはじめ、数多くのコンクールに入選。ピアノを奥村智美、K.ドラフィ、服部久美子、坂井千春、上野真の各氏に、重奏を阪田誠康、三船優子の各氏に師事。現在、京都市立芸術大学音楽学部ピアノ専攻3回生。

木村 貴子&関口 康祐●ピアノデュオ

Takako Kimura & Kosuke Sekiguchi, Piano Duo
2005年デュオ結成後、数々のコンクールの2台ピアノ、連弾部門で上位入賞を重ね、2010年かやぶき音楽堂デュオコンクール連弾部門第1位。ザ・カレッジ・オペラハウス第16回推薦コンサートをはじめ、数多くの演奏会に出演する他、映像を駆使した連弾講座を行うなど「音楽は明るく楽しく!!」をモットーに活動の場を広げている。14年デュオ結成10年目を迎えるにあたり、デュオリサイタル『ピアノデュオの軌跡』～木村貴子&関口康祐10年のあしあと～を開催。上田晴子、ヘルムート・ドイチュ各氏のレッスンを受講、川上孝子氏のもとに学ぶ。

奥村 真理●ピアノ Mari Okumura, Piano

神戸女学院大学音楽学部卒業。同大学研究生修了。在学中から演奏活動を始め ハンナ・ギューリック・スエヒロ記念賞、ザルツブルグ州都芸術科学文学振興基金受賞。リサイタル、多くのオーケストラとコンチェルトで共演。ヨーロッパにも演奏旅行を行い、好評を博し 昨春はイタリアでリサイタル、マスタークラス指導。コンクール審査等でも後進育成に当り、アンサンブルやトークコンサートにも力を注ぐ。市田悦子、H・P・ロジェ、池田洋子の各氏に師事。神戸女学院大学音楽学部非常勤講師。

池田 洋子●ピアノ Yoko Ikeda, Piano

東くめ・照子・貞一、井口愛子の各氏に師事。第7回全日本学生音楽コンクール高校の部第1位、文部大臣賞受賞。1954年毎日音楽コンクール入選。東京藝術大学在学中に渡仏し、パリ・エコール・ノルマル音楽院に入学。ジュール・ジャンティ及びアルフレッド・コルトー氏に師事。日本人として最初にリサンス・ド・コンセーレ(演奏家資格)を得て卒業。マリア・カナルス国際コンクール第2位(1位空席)、ヴィオッティ国際コンクール金賞。また近年は川西市民文化賞、兵庫県生活振興功労賞、兵庫県文化賞、瑞宝中綬章など輝かしい功績を収めている。神戸女学院大学名誉教授。現在、大阪音楽大学客員教授。日本ショパン協会関西副支部長。川西市民合唱団団長、川西音楽家協会会長。

◆モーツァルト: 歌劇《ドン・ジョヴァンニ》～

「おっしゃらないで、私の素晴らしい憧れのお方」

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト(1756-1791)は、宮廷詩人ダ・ポンテと組んで、《フィガロの結婚》に続く2作目のオペラ・ブッフア《ドン・ジョヴァンニ》を1787年10月29日にプラハで初演した。この曲は第2幕後半のドンナ・アンナの aria。ドン・ジョヴァンニに父を殺された彼女は、許婚者ドン・オッターヴィオから結婚を迫られるが、父の復讐が終わるまで待つて欲しいと言う。そしてしなやかな下降旋律に乗って、「私がつれないなんて言わないでください。私があなたを愛しているのはご存知でしょう。私の苦しみを沈めてください」と歌い、最後はテンポを速めて「きついつかは天も私のことを離れんでくれるでしょう」とコロラトゥーラで華やかに結ぶ。

◆モーツァルト: 歌劇《コシ・ファン・トゥッテ》～

「恋人よ許して下さい」

モーツァルトとダ・ポンテの共作3作目の《コシ・ファン・トゥッテ》は、皇帝の依頼により1790年1月26日ウィーンで初演された。フィオルティージとドラベッラの姉妹が男たちの計略により、その貞節が試されるという不道徳な内容の喜劇である。男たちが変装して恋人を取り替えて相手に言い寄る。ドラベッラはすぐに陥落するが、フィオルティージは貞節を持ちこたえる。しかし心を動かされそうになり、遠く(戦地にいるはず)の恋人にそのことを詫言るのが、この aria (ロンド) である。ABACの形式で「恋人よ、恋する心の過ちをお許し下さい」とゆったり歌いだし、Cで少し活発になり「恋人よ、あなたの素直な心には報いなければいけない」と歌う。

◆ショパン: ピアノ協奏曲 第1番 変ホ短調 op.11

フレデリック・ショパン(1810-1849)は、故郷ワルシャワで1830年10月11日最後の演奏会を開いた。そこで初演されたのがこのピアノ協奏曲である。この曲には20歳の青年の青春の輝きがきらめいている。甘い旋律には演奏会で aria を歌った初恋の人コンスタンツヤへの思いも込められているかもしれない。それらの極めて繊細な旋律と華やかなピアノリズムが渾然一体となった魅力を発散している。このあとウィーンに演奏旅行に出かけたショパンは、ワルシャワの革命の知らせを受け、二度と祖国ポーランドに帰れなかった。第1楽章: ソナタ形式。第2楽章: ロマンツェ。ショパンは手紙で「春の美しい月光をあびた瞑想」と書いている。三部形式。第3楽章: ロンド形式。主題はマズルカなどに用いられたクラコヴィアク風のリズムをもつ。

* * *

◆リスト: ピアノ協奏曲 第1番 変ホ長調 S.124

フランツ・リスト(1811-1886)は、若い頃からピアノのヴィルトゥオーソとして世界中を演奏旅行していた。ところが二人目の妻のカロリーネの助言により、演奏活動をやめて、ワイマールの宮廷楽長となり、作曲に専念するようになる。ピアノ協奏曲第1番は1855年2月17日にワイマールで、ベルリオーズの指揮とリストのピアノで初演された。作品自体は1832年にスケッチが始まり、35年には一応の完成をみるが、その後何度も手を入れて改訂し(この何度も改訂するのがリストの作曲の特徴である)、完成にこぎつけた。華麗な技巧が展開される冒頭楽章、ゆったりと歌う緩徐楽章、トライアングルが加わるスケルツォ、行進曲風のフィナーレの4つの楽章が切れ目なく連続する。5つの主題が循環主題のように何度も現れ、全体がソナタ形式のように構成される(スケルツォの中間で冒頭主題が派手に再現)。ヴィルトゥオーソ風の華やかさと緻密な構築を兼ね備えた傑作である。

◆プーランク: 2台のピアノのための協奏曲 ニ短調 FP61

フランシス・プーランク(1899-1963)は、「フランス6人組」の一人だが、最も才能豊か作曲家であり、得意のピアノ曲の他、オペラ、バレエ音楽、室内楽、宗教曲などに多くの名作を残した。2台のピアノのための協奏曲は、ド・ポリニャック公夫人の委嘱で作曲され、1932年9月5日にヴェネチア音楽祭で初演された。豊かな旋律、淫刺としたリズム、斬新な和声、意表を突く展開といった魅力の多い傑作である。第1楽章: ソナタ形式。ガムラン音楽の影響によるリズムと音階が特徴的である。第2楽章: 三部形式による緩徐楽章。主題はモーツァルトのピアノ協奏曲第26番《戴冠式》緩徐楽章の主題を連想させる。第3楽章: 活発なリズムによるフィナーレ。

◆モーツァルト: 2台のピアノのための協奏曲

変ホ長調 K.365

1779年モーツァルトは就職探しのマンハイム・パリ旅行からザルツブルグに帰ってくる。この旅行では就職先は見つからず、母親に死なれ、失恋もするという惨憺たるものだった。2台のピアノのための協奏曲は、おそらくこの頃モーツァルトと姉ナンネルのために書かれたのだろう(1775-7年作曲説もある)。技量に優れた二人のピアニストの丁寧な演奏が見事な充実した佳作である。なお原曲は弦楽にオーボエ、ファゴット、ホルンの編成だが、クラリネット、トランペット、ティンパニを追加した版もあり、81年と翌年にウィーンで演奏された際に書き加えられたと推定される。第1楽章: ソナタ形式。堂々たる第1主題と快活な第2主題の他にいくつかの副主題が、オペラの登場人物のように次々と現れる。カデンツァは作曲者自身のもの。第2楽章: 三部形式による緩徐楽章。変ロ長調の美しい主部に対し、中間部ではハ短調の陰りを帯びる。第3楽章: ロンド形式。ウィットに富んだ楽しいフィナーレ。

頑張れ!モーツァルト室内管弦楽団

～華麗なるオペラアリアと協奏曲の響宴～



ソプラノ●櫻井 孝子

ソプラノ●中野陽登美

ピアノ●小谷朋子

ピアノ●池田 堇

2台ピアノ●木村 貴子&関口 康祐

2台ピアノ●池田 洋子&奥村 真理

指揮●門 良一 管弦楽●モーツァルト室内管弦楽団

2016. 3/13 (日) 4:00pm ●いずみホール

主催◆モーツァルト室内管弦楽団、大阪アーティスト協会 TEL06-6135-0503/FAX06-6135-0504 e-mail: artists@gol.com
協賛◆いずみホール[一般財団法人 住友生命福祉文化財団]

大阪アーティスト協会は世界の子どもの未来を支える大阪ユニセフ協会に賛同し、コンサート会場で募金活動等を行いながら、音楽を通して少しでも社会に貢献できるような取り組みを続けています。皆様のあたたかいご支援ご協力をお願い申し上げます。

